

和服deひめじ

2010年(平成22年)10月28日(木曜日) 1頁 15頁 16頁

城下町演出 31日と来月3、7日



新撰組の侍などにふんしてイベントをPRする「アラカンネットワーク」のメンバーら(姫路商工会議所で)

姫路城の来場者減食い止め 和服散策市民協力を

まちづくりなどに取り組む姫路市のNPO法人「コムサロン21」が、世界遺産・姫路城を訪れる観光客に江戸時代の城下町にタイムスリップしたような雰囲気を楽しんでもらおうと、市民が和服姿でJR姫路駅周辺を歩くイベント「和服deひめじ」を31日と11月3、7日に行う。「平成の大修理」による観光客減を食い止めるため、商店街の協力店舗でチラシを配るなどして市民にも協力を呼びかける試み。和服で参加してくれた市民は、飲食店などでの割引サービスなどが受けられる。同法人は「市民の協力を得ながら、観光客に江戸情緒を楽しんでもらえる新しいイベントになれば」と意気込んでいる。

同法人のほかにも、団塊世代を中心に60歳前後の市民らでつくるグループ「アラカンネットワーク」のメンバー約20人も参加。龜山本徳寺(姫路市龜山)にゆかりのある新撰組や坂本龍馬らの幕末の志士、甲冑姿の姫路城の門番にふんして観光案内をしたり、記念撮影に応じたりして盛り上げていく。

姫路城では工事の始まった4月中旬以降、大天守への立ち入りが禁止された影響で、観光客が激減。市によると、市内18か所の観光施設では、8月の来場者数が前年同期比で25.7%減の42万4187人に落ち込んだ。NPOのメンバーら30人が参加するが、城下町のにぎわいをつくるには多くの動員が必要のため、市民にも協力を呼びかけることにした。当日は午前10時頃から、自前の和服や作業衣装で、姫路城とJR姫路駅を

結ぶ大手前通りや周囲の商店街を歩いてもらう。参加者は西二階町商店街やおみぞ筋商店街などの43店舗で料金割引サービスを受けられるという。

市観光交流推進室は「民間でまちを元気にしようとしてくれる取り組みはありがたい」としており、同法人の前川裕司理事長は「好評であれば、今後も定期的に開催して、観光の名物にしたい。姫路城が見えなくなっても、まちを歩けば歴史が感じられるような風情を楽しんでほしい」と話している。

問い合わせは同法人(079-224-8803)へ。

主催:特定非営利活動法人コムサロン21
姫路市下寺町43 姫路商工会議所新館4階
TEL079-224-8803 FAX079-224-1553
協力:大手前通り街づくり協議会、姫路呉友会、アラカンネットワーク